

総務省「放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材の在り方等に関する調査研究」

放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材

『情報娯楽番組（インフォテイメント）』

～ テキスト教材 ～

<平成 22 年 3 月版>

〔監修〕 中村 純子（川崎市立宮前平中学校 教諭）

〔企画・制作〕 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社

目次

本教材について	1
I. 概論	2
1. 高度デジタル情報社会におけるメディアリテラシー	2
2. 本教材の基本コンセプトと学習構造	3
3. メディアリテラシーの学習項目とWeb教材との関連	4
II. 理論	5
1. メディアリテラシーの出発点	5
2. 記号とコード	5
3. 構成	7
4. コンテキスト	8
5. 表象（リプレゼンテーション）	9
6. オーディエンス	9
7. 【参考資料1】 本教材が関連する教科の学習項目	10
8. 【参考資料2】	11
海外の母語教育の動向 「読み書き話す聞く＋メディアリテラシー」	11
9. 参考文献	12
III. 実践	13
1. 国語科 中学2年 学習指導案〔1時間版〕	13
2. 国語科 中学2年生 学習指導案〔3時間版〕	19
【付属資料】＜監修者推薦＞メディアリテラシー教育に関する書籍紹介	31

本教材について

本教材は、平成 21 年度総務省事業「放送分野におけるメディアリテラシー向上のための教材の在り方等に関する調査研究」の一環として開発された教材の一つです。

本教材は主に中学校での使用を対象としており、メディアリテラシー教育の幅広い分野の中で、特に「映像メディアの特徴」に焦点を当てています。

全体は次の 3 つの部で構成されています。

第Ⅰ部では、前半でメディアリテラシーの定義を整理しました。後半では、本教材の基本コンセプトや特徴を明示しました。

第Ⅱ部では、理論的な理解のために、「コード」、「構成」、「コンテキスト」、「リプレゼンテーション」、「オーディエンス」について解説を行いました。

第Ⅲ部では、以上を踏まえた実践として、中学校の国語科における学習指導案を提示しました。さらなる発展的な学習のために、メディアリテラシー教育における主な情報源を掲載しています。

<参考>

総務省が開発したメディアリテラシー教材は、次のウェブサイトに掲載されています。本教材の姉妹編として開発された「Web 教材」も、こちらから閲覧できます。

総務省「放送分野におけるメディアリテラシー」
(http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/top/hoso/kyouzai.html)

1. 概論

1. 高度デジタル情報社会におけるメディアリテラシー

ここ数年、デジタル技術の急速な進展により、既存のメディアの枠組におけるパラダイムシフトが起きています。インターネットを通じ、テレビや新聞のニュースも個人のつぶやきも一様に画面に映し出されます。マス・メディアとパーソナル・メディアが混在し、誰もが情報受信者であり情報発信者です。このようなメディア環境の中、デジタル・ネイティブ世代の中学生は自分自身への情報を取捨選択するゲートキーパーの役割をこなさなくてはなりません。さらに、自ら発信する情報に対して大きな責任も課せられているのです。高度デジタル情報社会において自律した市民として成長するために、これまで以上に、メディアリテラシーが必要とされます。

ここで、もう一度メディアリテラシーの定義を見つめ直してみましょう。

旧郵政省の『放送分野における青少年とメディア・リテラシーに関する調査研究報告書』（平成12年）において、メディアリテラシーは次のように定義されていました。

- ①メディアを主体的に読み解く能力
 - ア) 情報を伝達するメディアそれぞれの特徴を理解する能力。
 - イ) メディアから発信される情報について、社会的文脈で批判的（クリティカル）に分析・評価・吟味し、能動的に選択する能力。
- ②メディアにアクセスし、活用する能力
 - メディア（機器）を選択、操作し、能動的に活用する能力。
- ③メディアを通じてコミュニケーションを創造する能力
 - 情報の読み手との相互作用的（インタラクティブ）コミュニケーション能力。

本教材では、これらの項目の中で、①イに着目しました。

メディア環境が大きく変化した今、批判的分析の対象をマス・メディアからさらに一歩進めて、その情報の背景にある社会的文脈、すなわちコンテキストまで広げるべきでしょう。コンテキストとは、私たちが属する「社会の政治、経済、文化の動向や、それらの背後にある歴史的背景、価値基準、他者との関係や状況」です。メディア情報の制作者の意識や、情報を解釈する私たちの視点はコンテキストによって枠づけられています。メディアリテラシーを学ぶことによって、コンテキストによって枠づけられた意識の視界、メディアを介して認識できる世界を広げていくのです。

メディアからの情報を批判的に読み解き、自らの情報発信に役立てる際に、自分自身を枠づけているコンテキストを分析し、相対化する視点を持つこと

本教材では、このような視点を育むことを目指していきます。

2. 本教材の基本コンセプトと学習構造

これまで、メディアリテラシーの教材では、ニュースやドキュメンタリーなどのノン・フィクションのジャンルで、現実の表象分析が多く扱われてきました。

そこで、次のステップとして、「情報娯楽番組」を教材としました。情報娯楽番組とは、情報を娯楽として楽しむテレビ番組のことです。テレビ局の番組のジャンルでは「バラエティ」に分類されます。教養、健康、観光、グルメ、生活などに関わる情報を扱います。再現ドラマやアニメ、実験や調査のデータ、専門家や一般人へのインタビューなど、フィクションとノン・フィクションが入り交じった構成で情報が提示されます。

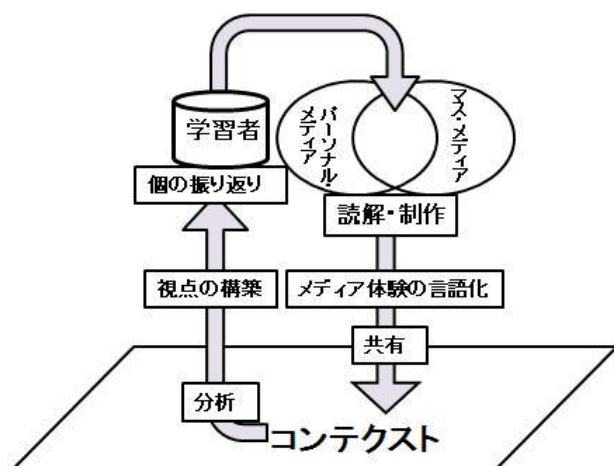
情報娯楽番組は私たちを楽しませてくれる反面、表現方法や情報の扱い方に問題を含む場合もあります。2009年11月、放送倫理・番組向上機構（BPO）から番組制作者への意見書が出されました※。

したがって、番組視聴者の私達がメディアリテラシーを向上させていくことも必要です。単に、情報を鵜呑みにしないというだけではなく、情報の背景にあるコンテキストも考えてみましょう。なぜその番組が作られたのか、どのような流行や価値観が番組制作者に影響を与えたのか、さらに、視聴者はその情報をどう捉えているのか、自分はどのような経験からその情報に価値を見出しているのかを分析していくのです。

本教材では、情報娯楽番組の制作を通して、メディアリテラシーを育むことを目標とします。グルメや中学生のテレビ視聴スタイルをテーマにした番組の1シーンを絵コンテで表現し、発表します。絵コンテの制作で、番組の構成、データの編集の仕方、インタビューの構成について学びます。

発表では、聞き手となった級友と相互評価し、自己の作品を振り返り、改善点を考えます。他者の作品と相対化し、自己の作品を批判的に分析します。

このようなサイクル構造を持つ学習活動を通して、メディアリテラシーを高め、自己のメディア観、アイデンティティを再構築していきます。



※ 『最近のテレビ・バラエティ番組に関する意見』 http://ww.bpo.gr.jp/kensyo/decision/001-010/007_variety.pdf

3. メディアリテラシーの学習項目と Web 教材との関連

本教材では、メディアを分析する着眼点として、次の5項目を取り上げました。

a	メディアのコードを理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
b	メディアの構成を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
c	コンテキストが情報に及ぼす影響を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
d	制作の意図と表象の関係を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。
d-1	バイアスについての理解
d-2	ステレオタイプについての理解
e	オーディエンスを想定し、反応を予測し、情報の解釈や制作を行うこと。

これらを平成 20 年版国語科学習指導要領と関連づけ、指導案を構成しました。単元として「情報娯楽番組」をテーマに、テキスト教材（制作）で1+3時間、Web教材（分析）2時間の構成です。教材の内容や学習活動のアプローチは異なりますが、身につけさせたいメディアリテラシーは共通です。制作と分析のどちらからでも、どちらかの最初の1時間だけでも実践できるように構成しています。学習内容をしっかりとおさえ、状況に応じて指導計画を立てて下さい。

テキスト教材【制作】（1+3時間）

Web教材【分析】（2時間）

教材の特徴		
印刷素材： 絵コンテワークシート グラフ キャラクターカード+セリフ	教材	動画素材： 写真 音楽 ナレーション 文字
マス・メディア=テレビ	分析対象	パーソナル・メディア=携帯電話
中学生のテレビ視聴の実態を報告する。	教材番組の主題	携帯電話を勉強に活用する方法を提示する。
肯定の立場…テレビの良さを確認 否定の立場…テレビの弊害を訴える。	教材番組の意図	携帯電話の積極的な活用を促す。
1 対談 司会…データ提示 コメンテーター…解説 2 インタビュー	教材番組の構成	1 現状分析 2 再現ドラマ<フィクション> 3 識者のコメント…データ提示 4 本編への導入
授業の方略		
学習者の制作活動を主体に、リフレクションで学習内容を確認する。	指導の方略	教材を視聴し、ワークシートにそって、分析を進め、学習内容を確認していく。
制作活動、発表、リフレクション	学習活動	分析、討議、意見交換
学習内容		
キャラクターカードの映像のコードを読み解き、インタビュー・シーンを構成する。	a コード	教材の情報を構成する映像のコード、音のコード、書き言葉のコードを読み解く。
情報の解釈の仕方を提示するコメンテーターの役割を理解し、絵コンテのセリフを書く。	b 構成	教材を視聴し、情報番組の構成技法を分析し、視聴者の与える効果を考察する。
テレビに対する世間一般のメディア観をふまえ、情報を構成する。	c コンテキスト	中学生と携帯電話の関わり方に対する世論をふまえ、教材を分析する。
目的や意図に応じてデータを関連づけ、考えをまとめ、情報を構成する。	d-1 バイアス	番組で提示されたグラフのデータのバイアスを見抜く。
キャラクターカードの人物の表象を分析し、情報の構成に活用する。	d-2 ステレオタイプ	番組の登場人物を分析し、ステレオタイプを含む人物の表象を理解する。
ターゲット・オーディエンスを設定して、情報を構成する。	e オーディエンス	教材のターゲット・オーディエンスを分析する。

II. 理論

1. メディアリテラシーの出発点

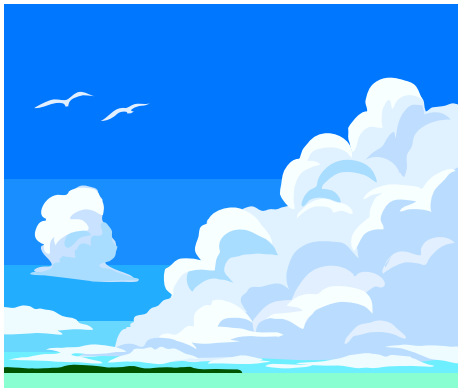
文化庁の平成20年度「国語に関する世論調査」では、毎日の生活に必要な情報を得るメディアはテレビが86%と1位でした。ネットの動画配信も容易にできる今日、映像を含めたメディア情報を読み解く力が必要とされています。平成20年版国語科学習指導要領でも、小学校高学年や中学校で、テレビやインターネットなどのメディアから取材する方法を身に付けることが促されています。さらに、高等学校の「国語表現」や「現代文B」では伝えたい情報を表現するための文字、音声、画像の活用が挙げられています。

では、映像メディアの特徴をふまえた学習をどのように指導していけばよいのでしょうか。1985年、メディア教育の第一人者であるイギリスの研究者、レン・マスターマンは、メディアは「現実をありのままに伝えるもの」ではなく「記号のシステム」であると考えて、それを「主体的に読み解くこと」から、メディア教育を始めるべきだと述べています。

本教材では、記号とコードの概念から、テレビの情報を主体的に読み解く5つの着眼点を学習していきます。

コード	構成	コンテキスト	表象	オーディエンス
-----	----	--------	----	---------

2. 記号とコード



右の絵は何が描かれているのでしょうか。「青空と入道雲」と答えたあなたは、おそらく青と白の色彩という表現を「青空と入道雲」という意味に結びつけて読み取ったのでしょうか。このとき、青と白の色彩からなる左の絵は青空と入道雲を思い起こさせる「記号」であるといえます。「記号」とは「何か特定の意味を担わされて繰り返し使われる表現」のことです。

このとき、青と白の色彩が青空と入道雲に結びついたのはそれらを結びつける約束事をあなたが知っていたからです。この約束事を「コード」と言います。「コ

ド」とは「意味を作り出す（読み解く）時に使われる解釈のきまりや約束事」です。

メディアの送り手は記号を使って、メッセージを構成します。私たちがメディアを通して目にしたり耳にしたりする「現実の出来事」は、本当は「現実の出来事」そのものではなく、メディアの送り手が何かの意図に基づいて記号を使って作り上げたメッセージなのです。

メディアリテラシーの学習は記号によって構成されたメッセージの背後にある送り手の意図やコードを読み解くことから始まります。それらを手がかりとして、メッセージの表面には表れない様々な意味に気づき、クリティカルに分析していくのです。

私たちの日常生活で身近なメディアはテレビです。テレビにはどんなコードがあるのでしょうか。私たちは日常のテレビ視聴から気付かぬうちにテレビのコードを学んできているようです。ここで改めて、テレビが持つコードを見直してみましよう。

◆書き言葉のコード

画面の書き言葉の意味は、以下の要素に着目して読み解きましょう。

言葉の選択 フォント形式 サイズ レタリング

テレビの画面ではタイトルやテロップなどの書き言葉のコードがでできます。



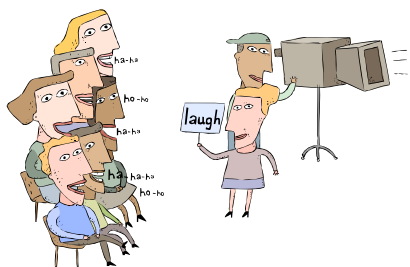
左の画面では、書き言葉のコードで、人物の肩書きと名前が示されています。日本語の特色である縦書きで示すことによって「国語学者」の専門性を強調しています。また、肩書きを白抜き文字、苗字を赤で示し、印象づけています。

このように、画面の書き言葉のコードは、文字の意味だけでなく、配置、色、デザインからも意味を読み解くことができます。

◆音のコード

テレビの音には次のような種類の表現があります。

セリフ 音楽 効果音 拍手・笑い ガヤ音



セリフは、言葉の意味内容だけでなく、話し手の声質やスピード、イントネーション、語気の強さ等から、様々な意味を伝えます。例えば、男性の落ちついた低い声であれば、風格があり、情報の内容に対する信頼性を印象づけます。

BGM（バック・グラウンド・ミュージック）はその画面の雰囲気を意味づけます。明るく軽快な曲が流れると、その場面の内容に肯定的、期待感の意味づけがなされます。

笑い声や拍手の音、「ガヤ音」という「へエーッ」「オオーッ」といった複数の人の声は、番組の内容の解釈を方向づけ、誘導する働きがあります。

◆映像のコード

映像には二つのコードがあります。映像に映し出された対象の意味を読み解く約束事と、カメラが切り取ったフレームの中の構図から意味を読み解く約束事です。

① シンボリック・コード

映像に映し出された次の表現に着目し、意味を読み解きましょう。

小道具 舞台設定 背景 照明 色
仕草 表情 衣服

例えば、右の写真の丸で囲んだ部分の「帽子」は画面の中の他の表現と関連させ、いくつかの意味を読み取ることができます。この帽子と白い体操服から、学校の体育の時間に被る「帽子」であることがわかります。背景の国旗から運動会が開かれており、紅組の児童であることが読み取ることができます。このように映像に映し出された対象から、象徴的な意味を読み解く時に使うコードを「シンボリック・コード」といいます。



写真提供：アフロ

② テクニカル・コード

カメラが切り取ったフレームの中の構成から意味と読み解く方法です。画面構成を決定するカメラワークは次のとおりです。

○カメラワーク

- ・アングル (ハイ・アングル、フラット・アングル、ロー・アングル)
- ・ポジション (ハイポジション、アイレベル、ロー・ポジション)
- ・サイズ (ロングショット、ミディウム・ショット、ウエストショット、バストショット、アップショット、クローズアップ)

テクニカル・コードの解釈例

	<p><ロングショット> <ハイ・アングル> 高い位置から見下ろすアングルで、部屋の様子と人物の位置関係がわかります。手前の人物はウエストショットで笑顔の表情が読み取れ、奥の人物の行動を微笑ましく感じていることが示されています。</p>
	<p><バストショット> 服装、所作などがわかり、人物像を読み取ることができます。丸い襟元の服装でおっとりとした家庭的な人柄が伺えます。「えー?!」といった開き方をした口元と目線から、カメラの手前にはいるはずの人物に反応していることがわかります。</p>
	<p><ロー・ポジション> 足下を映し出すことで、人物の移動を示します。床の色の違いと脱いだ靴が見えることから玄関であることが読み取れます。紺のハイソックスで膝がみえることから、短いスカートをはいた女の子であることが伺えます。</p>
	<p><クローズアップ> 対象を大きく映し出し、詳しい情報を知らせるために使われるサイズです。ここでは携帯画面に注目させています。画面の情報を読ませており、ここでは「書き言葉のコード」からこの四字熟語を見せている女の子の意図を読み解きます。</p>
	<p><ロー・アングル> うつむいて新聞を読む人物の表情を写すために、カメラは手前から見上げる形で映しています。口をとがらせた表情と、首をかしげている仕草と、頭上の「書き言葉のコード」の「東雲?」から、読みの難しい熟語に疑問を持っていることがわかります。</p>

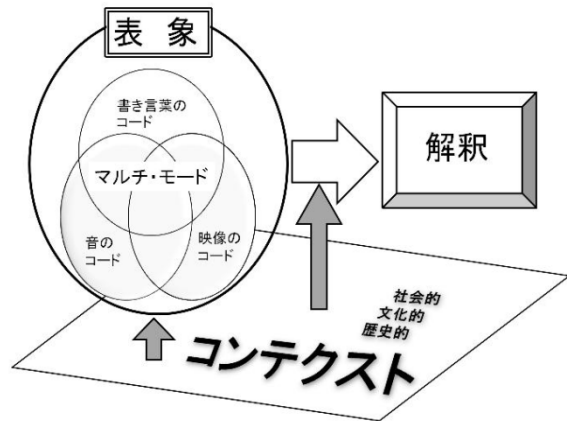
3. 構成

前項で確認してきたコードに基づき表象された情報は、それぞれのメディア特有の構成の約束事があります。物語は必ず「はじめ・中・終わり」という構造を持っています。また、昔話では「昔々、あるところに…」と語り始めることで、お話の時間と場所を設定します。小説では段落、映画やテレビではシーンのモンタージュ（映像のつなげ方）、漫画ではコマ割など、メディア特有の構成方法があります。時間的順序や事柄の順序、論理的な展開など情報の提示の仕方の約束事を心得ておきましょう。

本教材では、テレビの情報番組の構成について、絵コンテを活用して学習していきます。

4. コンテキスト

「コンテキスト」とは、私たちが属する「社会の政治、経済、文化の動向や、それらの背後にある歴史的背景、価値基準、他者との関係や状況」のことです。私たちはコードを読み解き、情報を解釈するときに、必ず、このコンテキストに照らし合わせて判断しています。

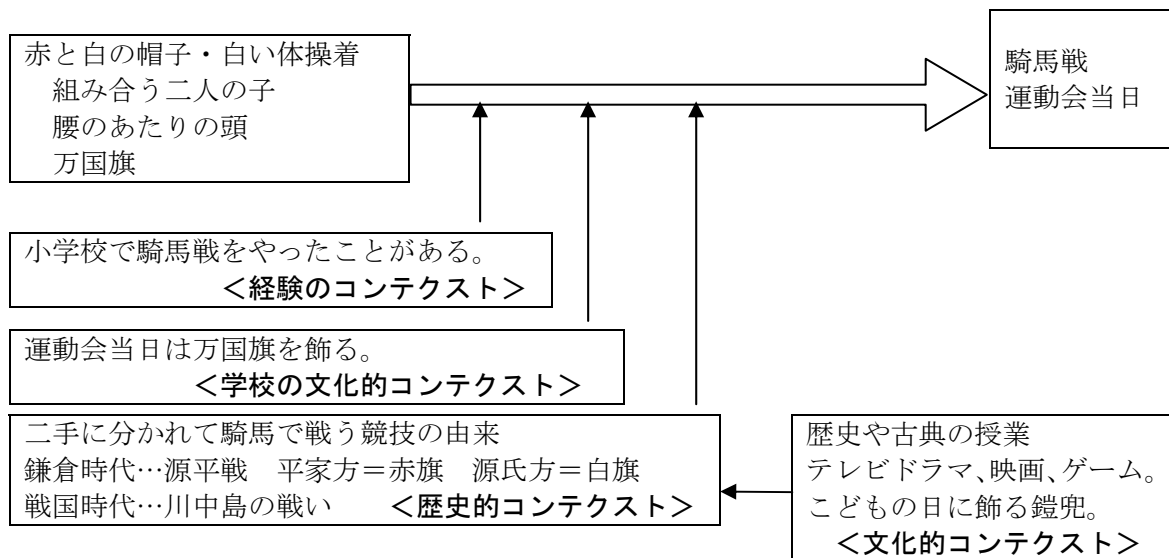


写真提供：アフロ

例えば、右の写真は「運動会の騎馬戦の場面」です。この写真が「騎馬戦」を表象していると解釈するために、写真から読み取れるものと自分の「経験、一般常識」と結び付けていたはずですが、それが、コンテキストです。

あらゆるメディア情報は、社会的コンテキストによって枠づけられています。コンテキストを分析することは、メディア情報を作り出す社会や文化、世の中の価値観を問い直し、自分自身の判断や価値観の枠組みを問い直すことにもつながります。世界を見る視野を広げていくことが大切です。

<騎馬戦の写真の解読で活用されたコンテキスト>



5. 表象（リプレゼンテーション）

“Representation”、日本語で「表象」と訳します。“Re”とは、「繰り返し、再度」という意味です。“presentation”とは「提示、表示、表現」という意味です。つまり、メディアは、「すでにあるもの（現実）を、メディアのコードを使って編集し直し、再び提示している」のです。情報の「編集」では、制作の意図をふまえ、多くの人に伝わりやすくするために、表現するものの複雑な要素を切り捨て、単純化して表象します。この時、「バイアス」や「ステレオタイプ」が発生します。

バイアスとは、もともと「斜め」という意味ですが、転じて「思い込み、偏見、先入観、固定観念」といった意味を含みます。例えば、女性は家庭で子育てに専念するものだとか、デジタル機器に弱いといった固定観念を「ジェンダー・バイアス」といいます。また、調査結果の数値を、番組の制作意図に沿うように、偏った提示の仕方をすることもあります。このような最初の思いこみや偏見をバイアスと呼び、「この結果にはバイアスがかかっている」といった使い方をします。

ステレオタイプとは、「類型的、典型的な人物像」のことです。例えば、テレビの子供向け番組では、幼い子供たちにもわかりやすくするために、登場人物を単純化して表現します。目や眉を吊り上げ、歯をむき出し、黒っぽい衣装を着て、「悪役」と一目でわかるようにしています。人物の表象のステレオタイプです。

普通のテレビ視聴でも、ステレオタイプの使われ方に注目してみましょう。従来のステレオタイプに頼るばかりでなく、新しい表現を追究する創造的な番組と出会うこともあるはずです。テレビ番組を分析する着眼点を学ぶことによって、テレビ番組を評価する力がつくことでしょう

6. オーディエンス

「オーディエンス」とは、メディア情報の受け手、テレビで言えば「視聴者」です。

「オーディエンス」は情報を解釈する時に、それぞれがおかれたコンテキストの影響を受けます。一人一人のコンテキストは多様です。ですから、解釈も多様なものになります。

しかし、メディア情報の送り手は多くのオーディエンスにメッセージをわかりやすく伝えたいのです。そこで、対象とするオーディエンスを、「性別、年齢層、職業、経験、考え方、価値観」といった要素で分析し、絞り込みます。そして、確実に視聴率を上げられるように、対象とするオーディエンスに合わせ、技法を駆使して番組を制作します。

オーディエンスはそれぞれのコンテキスト、認識の枠組を持っています。この枠に合う情報が最も理解されやすいのです。番組の内容により親近感を持たせるために、オーディエンスのコンテキストに馴染む存在、素敵だと感じて真似をして手が届きそうな人物を登場させるという技法もあります。

テレビ番組は世界のいろいろな情報を伝えてくれる「窓」の役割もしていますが、テレビを見る人の「鏡」の役割をしているとも言えます。

7. 【参考資料1】 本教材が関連する教科の学習項目

本教材は中学2年生の国語科を対象としていますが、様々な分野の内容を備えています。国語の学習項目は指導案に示しました。ここでは、関連する教科の学習項目を平成20年版中学校学習指導要領から紹介します。

◆社会 公民的分野

- (1) 私たちと現代社会 ア 私たちが生きる現代社会と文化
現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響を与えていることに気付かせる。また、現代社会における文化の意義や影響を理解させる

◆技術・家庭科

[技術分野] D 情報に関する技術

- (1) 情報通信ネットワークと情報モラルについて、次の事項を指導する。
ウ 著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考えること。
(2) デジタル作品の設計・制作について、次の事項を指導する。
ア メディアの特徴と利用方法を知り、制作品の設計ができること。
イ 多様なメディアを複合し、表現や発信ができること。

[家庭分野] D 身近な消費生活と環境

- (1) 家庭生活と消費について、次の事項を指導する。
イ 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができること。

◆美術 [第2学年及び第3学年]

- A 表現 イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。
B 鑑賞 ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

- 2-(1) イ 美術の表現の可能性を広げるために、写真・ビデオ・コンピュータ等の映像メディアの積極的な活用を図るようにすること。
ウ 日本及び諸外国の作品の独特な表現形式、漫画やイラストレーション、図などの多様な表現方法を活用できるようにすること。

8. 【参考資料2】

海外の母語教育の動向 「読み書き話す聞く＋メディアリテラシー」

カナダ・オンタリオ州とオーストラリア・西オーストラリア州の母語教育としての英語科カリキュラムを紹介します。

カナダ・オンタリオ州では 2006 年から、英語科の言語指導領域「話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと」に加え、初等教育（1～8 学年）では「メディアリテラシー」、中等教育（9・10 学年）では「メディア・スタディーズ」を設定しました。「メディアリテラシー」の領域での指導項目は 1 学年から 10 学年まで共通して次のように設定されています。

1 メディア・テキストの理解

- 1-1 目的とオーディエンス 1-2 メッセージの解釈 1-3 テキストの評価
- 1-4 オーディエンスの反応 1-5 視点・クリティカル・リテラシー
- 1-6 制作の観点

2 メディア形式と構成と技法の理解

- 2-1 形式 2-2 構成と技法

3 メディア・テキストの制作

- 3-1 目的とオーディエンス 3-2 形式 3-3 構成と技法
- 3-4 メディア・テキストの制作

4 スキルと方略の振り返り

- 4-1 メタ認知 4-2 相互に関連づけるスキル

一方、西オーストラリア州では、2003 年から、英語科の言語活動領域「話すこと・聞くこと、読むこと、書くこと」に加え、「見ること」が加えられました。これら 4 つの言語活動では共通して、次のような指導項目が設定されています。1 学年から 10 学年まで共通です。

A 構成

- ・言葉の活用法と文法 ・テキストの構成（決まりごと）

B コンテキストの理解

- ・コンテキスト ・目的 ・オーディエンス

C 過程と方略

- ・アイデアと情報にアクセスし、生成すること
- ・アイデアと情報を加工処理し、まとめること ・ふりかえりと評価

イギリス、フィンランド、ニュージーランドも母語教育としての英語科にメディアリテラシーを導入しています（Hart 1999）。また、韓国でも、2007 年告示の改訂国語科教育課程に「メディア言語」の学習が記載されているそうです（奥泉 2009）。これらの国は、OECD の PISA 調査のリーディング・リテラシーで連続して 8 位以内をキープしています。日本でも PISA 調査の結果を鑑み、平成 20 年版国語科学習指導要領に、メディアの活用がたくさん盛り込まれました。今、21 世紀型知識基盤社会に応じた言語力を育成するために、メディアリテラシーの育成が大きなテーマとなってきています。

9. 参考文献

- Buckingham, D (2003);Media Education: Literacy, Learning and contemporary culture 鈴木みどり監訳 (2006)
『メディア・リテラシー教育 学びと現代文化』世界思想社
- エーコ(著) 池上嘉彦(訳)『記号論 I・II』同時代ライブラリー270・271 岩波書店 1996
- Education Department of Western Australia Curriculum Council (2008) “English 2009”
- Hart,A, Süß.D (1999)“Media Education in 12 European Countries: A Comparative Study of Teaching”
- 池上嘉彦『記号論への招待』岩波新書 1984
- 池上嘉彦・山中圭一・唐須教光『文化記号論』講談社学術文庫 1994
- カナダ・オンタリオ州教育省(編)『メディア・リテラシー マスメディアを読み解く』リベルタ出版 1992
- Keane, J & McMahon, J (2005); Media Production and Analysis: A Resource for Units 1A-2B, Resource Enterprises
- 児島和人「新たなオーディエンス像の構築をめざして」『メディアオーディエンスとは何か』新曜社
pp.207-221 2007
- 国立教育政策研究所(編)『メディア・リテラシーへの招待:生涯学習社会を生きる力』東洋館出版社 2004
- 正村俊之(編)(著)『講座・社会変動 第6巻 情報化と文化変容』ミネルヴァ書房 2003
- Masterman, L (1985) Teaching The Media, Routledge
- Media in Mother Tongue Education in Secondary Schools’ Research and Graduate School of Education
- Ministry of Education (2006) “The Ontario Curriculum Grades 1-8 language”
- 文部科学省 (2008) 中学校学習指導要領解説国語編
- Morley, D (1992);Television, Audience and Cultural Studies 成実弘至訳(2001)『メディア・スタディーズ』吉
見俊哉編 せりか書房 pp.158-198
- 村野井均『子どもの発達とテレビ』かもがわ出版 2002
- 西兼志『窓あるいは鏡 ネット TV 的日常生活批判 附 ウンベルト・エーコ 「失われた透明性」』慶應
義塾大学出版会 2008
- 奥泉香 (2009)「韓国の国語科教育改訂にみる『メディア言語』学習の拡充」日本国語教育学編『国語教育
研究』No.452 2009年12月号 pp.50-57
- 小野善邦編『放送を学ぶ人のために』世界思想社 1998
- ロス/ナイチンゲール(著) 児島和人・高橋利枝・阿部潔(訳)『メディア・オーディエンスとは何か』新曜
社 2007
- 斎藤俊則『メディア・リテラシー』共立出版 2002
- 佐々木俊尚『2011年 新聞・テレビ消滅』文春新書 2009
- Turner, G (1996) ;British Cultural Studies: An Introduction Second Edition 毛利嘉孝/他訳 (1999)『カルチュ
ラル・スタディーズ入門 理論と英国での発展』作品社
- 上杉嘉見『カナダのメディアリテラシー教育』明石書店 2008
- Western Australian Certificate of Education Curriculum Council (2008)“Media Production and Analysis 2008
Syllabus”
- 矢野直明『総メディア社会とジャーナリズム 新聞・出版・放送・通信・インターネット』知泉書館 2009
- 吉見俊哉『カルチュラル・スタディーズ』岩波書店 2000
- 吉見俊哉『メディア文化論 メディアを学ぶ人のための15話』有斐閣アルマ 2004

III. 実践

1. 国語科 中学2年 学習指導案〔1時間版〕

4 コマ絵コンテ制作

【目標】

1 国語科の学習目標（平成20年版学習指導要領 国語科編）

＜話すこと・聞くこと＞

目的や場面に応じ、構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせる。

2 メディアリテラシーの学習目標

メディア情報はメディアのコードを活用し構成されており、オーディエンスは多様なコンテキストに影響され多様な解釈を行うことを理解し、自らの表現に活用する力を身に付けさせる。

【内容】

1 国語科の学習内容（平成20年版学習指導要領 国語科編）

＜話すこと・聞くこと＞

ウ 目的や状況に応じて、資料を効果的に活用して話すこと。

エ 話の構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。

2 メディアリテラシーの学習内容

a メディアのコードを理解し、情報の解釈や制作を行うこと。

b メディアの構成を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。

c コンテキストが情報に及ぼす影響を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。

【評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	メディアリテラシー
・メディアリテラシーを高め、日常のメディア情報の活用に役立てようとしている。	・目的に応じて、資料を効果的に活用して話している。 ・話の構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。	・映像のコードを理解し、制作している。 ・番組の構成を理解して、制作している。 ・コンテキストが情報に及ぼす影響を理解している。

【授業の構想】

1 身につけさせたい力

絵コンテでテレビ番組の構成を確認し、映像のコードを理解し、セリフを完成させ、発表する。発表内容に対する自己評価、相互評価から、改善点を考えさせる。授業のまとめのふりかえりでは、学習者自身のテレビ視聴経験によって、テレビ番組のコードと構成を無意識のうちに学んでいたことに気付かせていきたい。このようにメディアと自己の関わりを客観的に分析できるメディアリテラシーを身につけさせたい。

2 教材の選択

本実践はテキスト教材の情報番組制作「中学生とテレビ」の導入として、絵コンテの形式を理解させるものである。4枚の絵から映像のコードを解釈し、テレビ番組の1シーンを構成するセリフを作成する。画面とセリフの話型が入っている絵コンテを活用することで、短時間で映像制作の一端を体験させることができ、有効な教材であると判断した。

【指導案】

時	学習目標	評価規準	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ・番組のジャンルを設定し、絵コンテの映像のコードを解釈し、セリフの表現を工夫する。 ・出演者の役割と視聴者の反応を意識し、効果的な話し方を工夫する。 ・話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、評価する。 ・作品を振り返り、映像のコードを確認する。 ・自分の制作した絵コンテをふり振り返り、日常のテレビ視聴の経験のコンテキストが影響を与えていることを認識する。 ・学習のまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像のコードを理解し、制作している。 <メディアリテラシー a> ・番組の構成を理解して、制作している。 <メディアリテラシー b> ・目的に応じて、資料を効果的に活用して話している。 <話すこと ウ> ・話の構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。 <話すこと エ> ・映像のコードを理解している。 <メディアリテラシー a> ・コンテキストが情報に及ぼす影響を理解し、クリティカルに判断している。 <メディアリテラシー c> ・メディアリテラシーを高め、日常のメディア情報の活用役に役立てようとしている。 <国語への関心・意欲・態度> 	<ul style="list-style-type: none"> 絵コンテ練習シートの記述 発表の行動観察 自己評価の記述 評価シートの記述 評価シートの記述 評価シートの記述

学習活動	指導上の留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ制作における絵コンテの意義を知り、本時の学習の目標を確認する。 ・4つの絵の表現から読みとれる意味を確認する。 ・番組のジャンルと内容を設定し、試食する4コマの絵コンテにセリフを書く。 ・班で作品を発表し合う。 ・絵コンテの絵の方を示しながら、セリフを効果的に話す。 ・発表を聞き、評価シートに評価、改善点を記入する。 ・班の代表を選ぶ。 ・班の代表者は、前に出て、作品を発表する。 ・映像のコードを確認する。 ・テレビ番組は制作者の意図によって構成され、編集されていることを確認する。 ・絵コンテの作品には、各自のこれまでのテレビ視聴経験が反映されていることに気づく。 ・学習のまとめを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ番組は出演者のセリフを脚本で、カメラワークを絵コンテで構成して、制作されていることを説明し、本時の学習の目標を確認する。 ・4つの絵の映像表現の意味を確認していく。 例・ウエストショット＝背景と手前の机から場所の様子が読み取れる。二人の位置と表情がわかる。二人ともカメラの方を向いて座っており、男性は視聴者に語りかけている。 ・男性の服装＝背広、ネクタイで視聴者に信頼感を与える。 ・超クローズアップショット＝手前にあるロールケーキが情報の主題であることが伝わる。ケーキの様子が詳しくわかる。 ・クローズアップ＝前のコマからの関連で、女性が口に運んでいるものがケーキであることがわかる。(モンタージュ) ・女性のしぐさ＝笑顔で頬に手をあてていることから、満足している様子がわかる。 ・セリフを考える時、どんなジャンルの番組で、何を伝えるために試食して見せているのか、意図を明確に設定するように促す。グルメ番組、料理番組、食品通販番組などのヒントを与えてもよい。 ・発表時間と評価を記入する時間を一斉に展開できるように、時間の管理を行う。 ・滑舌やイントネーション、感情の込め方などを意識するように示唆する。 ・発表者の内容を批判的に分析して聞き、評価と改善点を評価シートに記入するよう指示する。 ・話し方、会話のリズム、発想のユニークさなどに着目し、代表を選ばせる。 ・生徒作品を例にとり、映像のコードの解釈を確認する。 ・テレビ番組は制作者が絵コンテを作り、時間枠の制限の中で制作意図をわかりやすく伝えられるように、編集されていることを確認する。 ・自分の絵コンテと似た内容のテレビ番組を視聴したことがあるかを思い出させ、日常のテレビ視聴を通してテレビのコードや構成技法を無意識に身につけていたことを自覚させ、自己の経験のコンテキストを意識させる。 ・日常生活でも、映像のコードを意識してテレビ視聴するよう促す。

【指導上の留意点】

- ・絵コンテを班で発表するときは、ワークシートの画面とセリフの境を折り、聞き手には絵だけを示し、セリフが書いてある方を内側に持つ。発表では文字を見せず、絵と声で情報を伝えるように指導する。


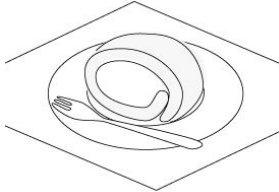


【評価規準】

	A	B	C
<p><話すこと> ウ 目的や状況に応じて、資料を効果的に活用して話すこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 番組が意図する情報を強調し、キャスターの個性を表現し聞き取りやすい話し方を意識して、セリフを発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取りやすい話し方を心がけ、セリフを発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵コンテのセリフを発表することができる。
<p><聞くこと> エ 話の構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 発表作品の内容が制作意図を明確に伝えるものとなっているか、話し方を工夫しているかを評価しながら、聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表作品の内容を評価しながら、聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発表作品のジャンル、内容を聞き取ることができる。
<p><メディアリテラシー> a メディアのコードを理解し制作すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 映像コードを理解し、多様な解釈を加え、制作に役立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像コードを理解して、制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像コードがあることがわかる。
<p>b 番組の構成を理解して、制作している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 番組の構成を理解し、番組の意図が視聴者に伝わるように登場人物のセリフを書き、紹介するケーキの描写を詳しく工夫して書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 番組の構成を意識し、視聴者を意識したセリフを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵に合わせた登場人物のセリフを書くことができる。
<p>c コンテキストが情報に及ぼす影響を理解し、クリティカルに判断する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 同じ情報でも経験のコンテキストの違いによって多様な解釈ができることを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> テレビ視聴経験が絵コンテの表現に影響を与えていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵コンテに関連したテレビ視聴経験を思い出すことができる。

絵コンテ 練習シート

絵コンテにセリフを書きましょう。画面にテロップを入れてもよいです。

これから（名前 _____）の
発表を始めます。

	画面	セリフ
1		
2		
3		
4		

これは「 _____ 」番組です。
 （↑番組のジャンル）

視聴者に「 _____ 」という
 情報を伝えるための1シーンです。

いかがでしたか。これで（ _____ ）の発表を終わります。

発表 自己評価

*工夫して話すことができたか？
 A ・ B ・ C

*制作意図が伝わっていたか？
 A ・ B ・ C

*聞き手の反応を見てわかりやすく
 話すことができたか？
 A ・ B ・ C

気づいたこと

発表 評価シート

年 組 番 名前

発表者氏名	ジャンル	評価	感想・アドバイス
		A B C	
		A B C	
		A B C	
		A B C	
		A B C	
		A B C	

私の発表への評価 A… 人、 B… 人、 C… 人

絵コンテに似ている場面が出てきたテレビ番組をみたことが…ある・ない

*「ある」と答えた方へ どんな番組でしたか？

*その番組は、自分の制作した絵コンテのどの部分に影響を与えていましたか？

学習のまとめ

2. 国語科 中学2年生 学習指導案〔3時間版〕

情報番組制作「中学生とテレビ」

【目標】

1 国語科の学習目標（平成20年版学習指導要領 国語科編）

＜話すこと・聞くこと＞

目的や場面に応じ、構成を工夫して話す能力、話し手の意図を考えながら聞く能力、話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせる。

2 メディアリテラシーの学習目標

メディア情報はメディアのコードを活用し構成されており、オーディエンスは多様なコンテキストに影響され多様な解釈を行うことを理解し、自らの表現に活用する力を身に付けさせる。

【内容】

1 国語科の学習内容（平成20年版学習指導要領 国語科編）

＜話すこと・聞くこと＞

ア 社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。

イ 異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。

ウ 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。

エ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。

オ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げること。

2 メディアリテラシーの学習内容

b メディアの構成を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。

d 制作の意図と表象の関係を理解し、情報の解釈や制作を行うこと。

d-1 バイアスについての理解 d-2 ステレオタイプについての理解

e オーディエンスを想定し、反応を予測し、情報の解釈や制作を行うこと。

【評価規準】

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	メディアリテラシー
・メディアリテラシーを高め、日常のメディア情報の活用に役立てようとしている。	・目的に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話している。 ・話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。 ・相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。	・番組の構成を理解して、制作している。 ・制作の意図を理解し、情報を制作している。 （バイアスについての理解） （ステレオタイプについての理解） ・オーディエンスを想定し、制作に取り組んでいる。

【授業の構想】

1 身につけさせたい力

私たちが日常生活の情報収集で最も頻繁に活用し、影響を受けているメディアはテレビである。近年、情報が改ざんされた情報娯楽番組の内容を鵜呑みにして、誤ったダイエット方法が広まり、社会問題となったことがある。情報は現実をありのままに映し出したものではなく、構成されたものである。視聴者はこのことを自覚し、客観的に吟味分析するメディアリテラシーを身につけていく必要がある。

そこで、情報の送り手として番組制作の体験を通して、テレビ番組の構成技法や情報の編集過程を理解させていく。さらに、番組発表会を行い、聞き手の評価をうけ、自らの作品を批判的に分析し、改善点を見出させる。この学習活動により、日常のテレビ視聴でも活用できるメディアリテラシーを身に付けさせたい。尚、本単元では、「話すこと・聞くこと」の言語力の育成もねらいとしている。

2 教材の選択

① アンケートと結果のグラフデータ

導入でアンケートを活用し、学習者自身のテレビ視聴スタイルを振り返らせる。資料のアンケート結果との比較では、自己の視聴スタイルを相対化させることにより、分析の視点を明確に持たせる。

4コマ目の司会のセリフを選択し、番組の制作意図を決定する。3コマ目のコメントでは、4コマ目のセリフにつながるようにアンケート結果を関連付けて解釈させていく。その過程でデータの解釈にはバイアスがかかること、データの解釈は多様で同じデータから対称的な文脈が引き出せることを理解させる。

② 絵コンテ

画面とセリフの話型が入っている絵コンテを活用することで、短時間で映像制作の一端を体験させることができる。絵コンテ制作では、初めに4コマ目の司会のセリフを選択させる。締めくくりとなるこのセリフで、番組の制作意図が決定する。「ノー・テレビ・ディ」の必要性を述べる発言Aは、テレビ視聴に対して否定的な立場であり、3コマ目のコメントは長時間視聴や情報の悪影響を危惧する内容となることが予想される。テレビを「生活必需品」と述べる発言Bは肯定的な立場でテレビ視聴を促す内容となろう。創意工夫を凝らす学習者のために、Cの空欄も設定した。番組の意図を明確にした上で、コメンテーターのセリフが4コマ目の司会のセリフに矛盾なくつながるようにアンケート結果の分析を工夫させる。

③ キャラクターカードとセリフ

キャラクターカードとセリフの組み合わせによって、インタビューの編集を疑似体験させる。真面目なキャラクターにテレビを肯定的とらえる真面目なセリフを組み合わせ、視聴者の納得を促したり、テレビに対する否定的なセリフを組み合わせたり、視聴者の意表を突いたりするなど、様々な演出が考えられる。この学習活動から、テレビで表象される人物像はわかりやすく伝えるためにステレオタイプも活用されることを理解させ、自らの制作で効果的に活用できるように促していく。

3 指導のポイント

マス・メディア情報で、データにバイアスがかけられたり、ステレオタイプが活用されたりすることがある。時として誤解を招いたり、偏見を助長することもある。この点については、これまではマス・メディアを批判の対象とし、送り手の情報倫理の問題が追及されてきた。しかし、高度デジタル情報社会の今日、誰もが情報の送り手である。学習者もまた情報の送り手として、自らの情報発信に責任を持つことを学ばなくてはならない。そこで、本教材を用いて情報編集を体験させ、制作意図をわかりやすく伝えるために、バイアスやステレオタイプが含まれることを考えさせていきたい。学習者自身の作品を客観的に分析することを通して、メディアリテラシーを高める指導につなげていきたい。

また、情報を発信する「相手意識」として、話者と同じ空間を共有する級友だけでなく、メディアを媒介としてつながる不特定多数の人々のグループ、「オーディエンス」を想定させたい。多様なコンテクスト、価値観、考え方を持つ「オーディエンス」に対して、わかりやすく情報を伝える方法を考えさせていきたい。

【指導の留意点】

1 第3時の発表では次のような発表方法が考えられる。

①絵コンテのイラストをプロジェクターでスクリーンに映し出す方法



- ・イラストをプリントスクリーンでパワー・ポイントに貼り付け、絵コンテの順番で並べる。
- ・発表者がアテレコしながら、パソコンを手元で操作する。

②紙芝居風に見せる方法



- ・イラストを A3 サイズの紙に印刷し、厚紙の台紙に貼る。
- ・紙芝居用の木枠に入れて見せると効果的である。

③教室をスタジオに見立てる方法



- ・グラフをA3サイズの紙に印刷し、厚紙の台紙に貼る。フリップボードとして司会者役の生徒が実際に持って示しながら演じる。もしくは、黒板に貼りだし、指し棒を使って示す。
- ・マイク、マイクスタンドを用意するとよい。
- ・発表風景をカメラで撮影し、テレビ画面に接続して見せるとより臨場感が増す。

④ラジオ番組

映像の工夫が難しい場合は、ラジオ番組という設定で、音声だけで構成することも可能である。ただし、グラフの結果を画面で見せることができないので、引用するデータを聞いて分かるように表現する工夫をさせるとよい。

2 絵コンテ 2 コマ目の司会のセリフでは、次のような言葉を加えることで、数字の情報の印象が変わることにも気付かせ、工夫するように指導するとよい。

例 「平日のテレビ視聴時間は、なんと平均（ ）時間（ ）分でした。」
「平日でもテレビ視聴時間は 平均（ ）時間（ ）分にとどまりました。」
「ウェブで見る人は（ ）%もいました。」 「（ ）%だけでした。」

【指導案】

時	学習目標	評価規準	評価方法
第1時	<ul style="list-style-type: none"> テレビに対する様々な考え方があることを確認する。 自己のテレビ視聴スタイルと比較し、アンケート結果のデータを分析する。 データの着目ポイントや情報の解釈の違いに気づき、よりよい構成を考える。 テレビに対する制作の立場を決め、データを活用し、コメンテーターのセリフを書く。 コメンテーターのセリフを発表し、データの解釈の仕方を評価し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作の意図と表象の関係を理解し、情報を制作している。(バイアスについての理解) ＜メディアリテラシー d-1＞ 番組の構成を理解して、制作している。 ＜メディアリテラシー b＞ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。 ＜聞くこと エ＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 各自の絵コンテの記述分析 発表評価シートの記述分析
第2時	<ul style="list-style-type: none"> グループで、インタビュー・シーンを構成し、絵コンテを完成させる。 論理的展開を考え、情報を構成する。 ターゲット・オーディエンスを設定する。 効果的な話し方を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 制作の意図と表象の関係を理解し、情報を制作している。 (ステレオタイプについての理解) ＜メディアリテラシー d-2＞ オーディエンスを想定し、制作に取り組んでいる。 ＜メディアリテラシー e＞ 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。 ＜話すこと・聞くこと オ＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 共同制作した絵コンテの記述分析 話し合いでの行動の観察
第3時	<ul style="list-style-type: none"> 番組発表会を行う。 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、評価する。 聞き手の反応をふまえ、自己の作品を振り返る。 各班の発表内容を振り返り、ターゲット・オーディエンスに効果的に伝わる情報の構成方法やステレオタイプの活用方法について確認する。 本単元で学んだことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話している。 ＜話すこと ウ＞ 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、制作意図を分析している。 ＜聞くこと エ＞ メディアリテラシーを高め、日常のメディア情報の活用に役立てようとしている。 ＜国語への関心・意欲・態度＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 発表時の行動の観察 聞き取り評価シートの記述 学習のまとめの記述

学習活動	指導上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭のテレビ視聴のルールを紹介し合う。 ・アンケート記入によって、自己のテレビ視聴スタイルを再確認する。 ・アンケートの自分の記述と〇〇中の結果を比較する。 ・ワークシート1「絵コンテ」4コマ目の司会者のセリフを選び、番組の意図を決定する。 ・その制作意図に則した構成になるよう、コメントーターのセリフを、アンケート結果を基に作成する。 ・絵コンテを発表し、データの解釈の仕方を評価し合う。 ・データの解釈の仕方の多様性に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者の家庭でのテレビ視聴のルールで、「テレビを付けっぱなしにすることが多い」か「テレビを見る時間を限っている」など紹介し合い、テレビに対していろいろな考え方があることを確認させる。 ・学習者自身のテレビの視聴スタイルと〇〇中のアンケート結果を比較させ、グラフのデータで気付いた点をメモさせ、コメントを書くための材料とさせる。 ・4コマ目の司会のセリフによって、番組の意図が決定されることに気付かせ、テレビ視聴に対して肯定的、もしくは否定的な内容とするかを考えさせる。 ・「視聴時間」と「視聴時間帯」、「視聴時間」と「テレビの見方」や「ジャンル」「理由」の情報を結びつけて、コメントを考えるように促す。 ・同じデータでも多様な解釈の仕方があり、制作者の意図を反映させると「バイアス」が生じるものであることを確認させる。「バイアス」とは英語で「斜め」の意味でここでは情報の解釈に対して偏りや固定観念が影響することを意味する。 	第1時
<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標は、次時の番組発表会に向けて、グループでワークシート2の絵コンテ完成であることを確認する。 ・お互いのワークシート1の絵コンテを検討し発表で使うコメントを決定する。 ・番組の制作意図をふまえ、インタビュー・シーンのキャラクターとセリフを選ぶ。 ・構成の論理的展開をよく考え、9コマ目のコメントーターの発言を考える。 ・絵コンテを振り返り、番組を見てほしい人(ターゲット・オーディエンス)を設定する。 ・出演者の役割分担を決め、リハーサルを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート1の絵コンテ4コマ目の司会者のセリフを基に、1班5～6人の組み合わせを事前に指導者が決めておく。 ・互いの絵コンテを読み合い、着目した情報や解釈の仕方を比較検討し、良い点を出し合い完成させる。 ・キャラクターカードとセリフを組み合わせるときに、オーディエンスが想定するステレオタイプをふまえ、効果的な構成を考えるように指示する。 ・番組の展開に矛盾がないか、全体の構成を熟考させる。 ・セリフは枠内のものをヒントに、創意工夫を加えるように指示する。 ・話し方や声の調子など、工夫を凝らすように指示する。 	第2時
<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに前に出て発表を行う。 ・各班の発表で工夫した点と制作の立場を評価しながら聞き、評価シートに記入する。 ・聞き手の発表の評価をふまえ、自分たちが制作した番組の良かった点、改善点を振り返る。 ・各班の発表内容を振り返り、ターゲット・オーディエンスに効果的に伝わる情報の構成方法やステレオタイプの活用方法について確認する。 ・本単元を振り返り、学習のまとめを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料や機器などを効果的に活用できるよう準備しておく。 ・聞き手にわかりやすい話し方を工夫させる。 ・コメントーターの発言やインタビューの構成や展開に矛盾がないかを聞き分け、評価させる。 ・情報の構成の仕方に対して2点、話し方に対して1点、それぞれ3段階で評価し、合計した総合評価をつけるよう指示する。発表が終わったら、聞き手に判定結果を挙手で確認させる。その結果を踏まえ、自己評価させる。 ・発表を振り返り、工夫した点や良かった点を相互評価させる。 ・アンケート結果やキャラクターの絵のどこに着目してセリフを書いたのかを振り返り、ステレオタイプの活用方法についての確認ができるよう解説をする。 ・日常生活でも、情報の構成を客観的に分析して、テレビを視聴するように促す。 	第3時

【評価規準】

第1時 評価資料＝絵コンテ・ワークシートの記述

	A	B	C
<メディアリテラシー b> 番組の構成を理解して、 番組の構成を理解して、 制作している。	番組の構成を理解し、番組の意図が視聴者に伝わるように登場人物のセリフを工夫して書くことができる。	番組の構成を意識し、視聴者を意識したセリフを書くことができる。	絵に合わせた登場人物のセリフを書くことができる。
<メディアリテラシー d-1> 制作の意図と表象の関係を理解し、情報を構成している。	制作の意図に即して、特徴ある数値に着目し、コメンテーターのセリフを工夫して書くことができる。同じデータからバイアスのかけ方によって多様な解釈ができることを理解している。	制作の意図に即して、数値を取り出し、コメンテーターのセリフを工夫して書くことができる。同じデータから多様な解釈ができることを理解している。	絵コンテの話形に即して、基本的な情報のおおまかな数値に着目し、司会者のセリフを書くことができる。
<聞くこと エ> 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。	論理的な構成や展開などに注意して聞き、効果的なデータの着目ポイントを指摘し、評価することができる。	論理的な構成や展開などに注意して聞き、評価することができる。	論理的な構成や展開に気をつけて聞くが、評価が十分にできない。

第2時 評価資料＝発表用絵コンテの記述 授業中の行動観察

	A	B	C
<メディアリテラシー d-2> メディアが表象する人物のステレオタイプを理解し、制作に取り組んでいる。	ステレオタイプの効果を理解し、キャラクターとセリフの組み合わせを工夫したインタビュー場面を構成することができる。	自らが構成したインタビュー場面がステレオタイプで表象されていることに気づくことができる。	インタビュー場面を構成することができる。
<メディアリテラシー e> オーディエンスを想定し、制作に取り組んでいる。	オーディエンスを明確に設定し、制作意図が効果的に伝わる構成を考えることができる。	制作の意図をふまえ、オーディエンスを設定することができる。	オーディエンスの存在を認識できる。
<話すこと オ> 相手の立場や考えを尊重し、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して自分の考えを広げている。	班員の絵コンテの良い点を採用し、自らもアイデアを提案し、協力して絵コンテをまとめることができる。	班員の意見をまとめ、発表用の絵コンテを仕上げることができる。	自分の担当するセリフを発表用絵コンテに書くことができる。

第3時 評価資料＝発表時の近藤観察 聞き取り評価シートの記述

	A	B	C
<話すこと ウ> 目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話している。	イラスト画面やグラフの提示の仕方を工夫し、聞き手の反応を見て、わかりやすい話し方で番組内容の発表をすることができる。	イラスト画面やグラフを提示しながら、番組内容の発表をすることができる。	番組内容の発表をすることができる。
<聞くこと エ> 話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較している。	論理的な構成や展開などに注意して聞き、効果的だった点や矛盾点を具体的に指摘し、評価することができる。	論理的な構成や展開などに注意して聞き、評価することができる。	論理的な構成や展開に気をつけて聞くことができるが、評価が十分にできない。
<国語への関心・意欲・態度> メディアリテラシーを高め、日常のメディア情報の活用役に役立つようとしている。	テレビの情報番組が制作の意図を効果的に伝えるために情報の編集過程で、バイアスが生じることを理解し、効果的に活用できる。	テレビの情報番組が情報を取捨選択して構成され、バイアスが生じることを理解できる。	テレビの情報番組が情報を基に構成されていることが理解できる。

中学生のテレビ視聴スタイル アンケート

年 組 名前 ()

■質問1 あなたは平日、どれくらいの時間 テレビを見ていますか？

*テレビを見る時間帯を線で区切り、斜線を引いてください。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

--

私がテレビを見る時間は 平日は だいたい 時間 分くらいです。

■質問2 あなたのテレビの見方を教えてください。

放送時間に見ますか？録画したものを再生して見ますか？ウェブの動画配信を見ますか？(複数可)
 どんなジャンルを見ていますか？

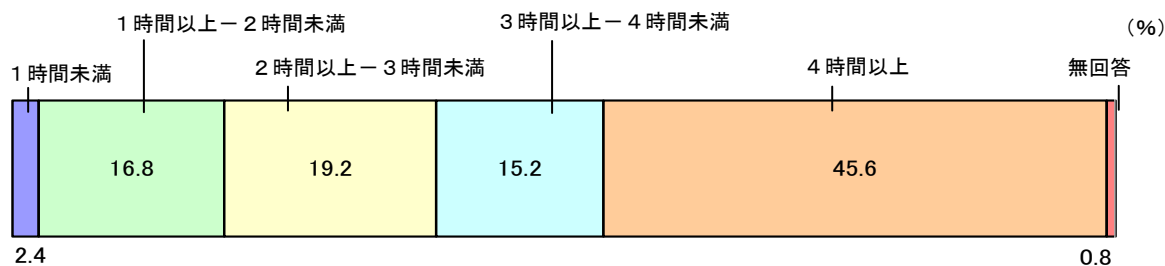
	○	ジャンル
放送時間	<input type="checkbox"/>	
録画再生	<input type="checkbox"/>	
ウェブ動画	<input type="checkbox"/>	

ジャンル…ニュース、報道、 スポーツ、情報、ワイドショー、ショッピング、ドラマ、音楽
 バラエティ (情報娯楽) 、映画、アニメ・特撮、ドキュメンタリー、教養、
 劇・公演、趣味、教育

中学生のテレビ視聴スタイル アンケート結果

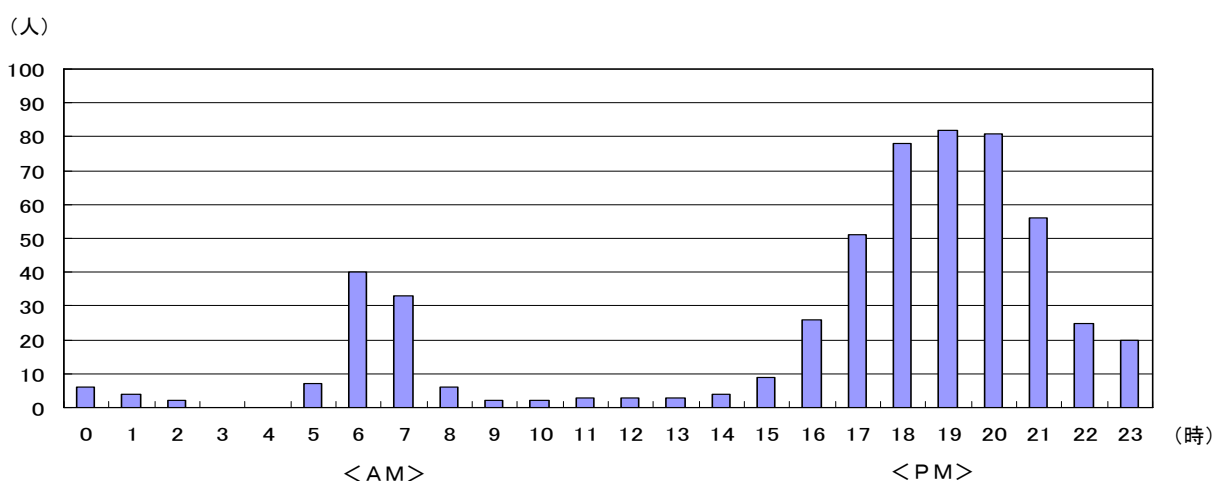
(〇〇中学校2年生 125人 2009年1月実施)

■質問 1-1 テレビの視聴時間



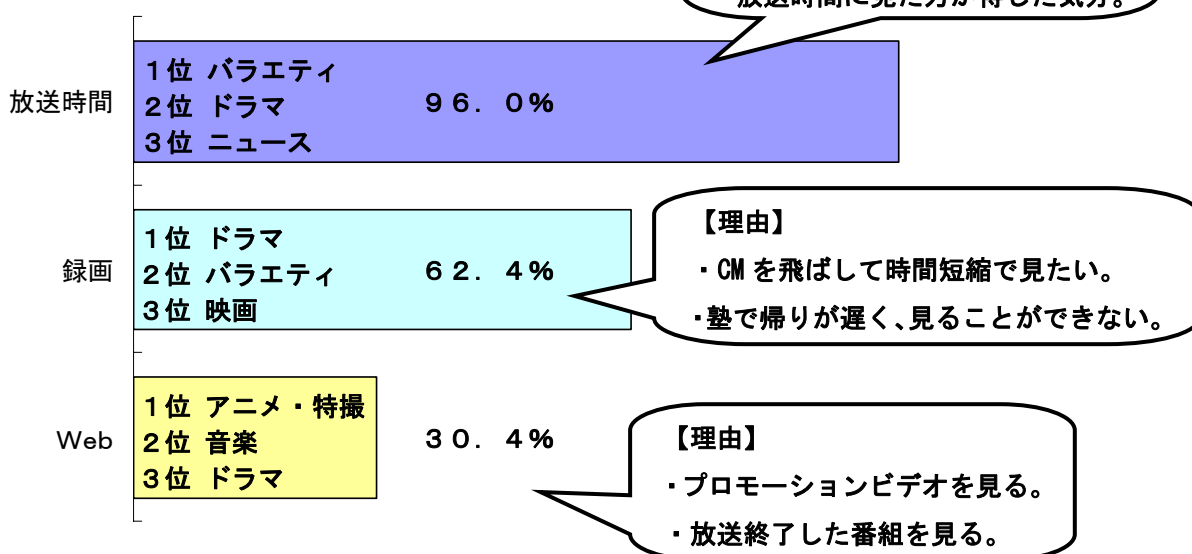
平均時間 3時間23分

■質問 1-2 テレビの視聴時間帯



■質問 2 テレビの見方


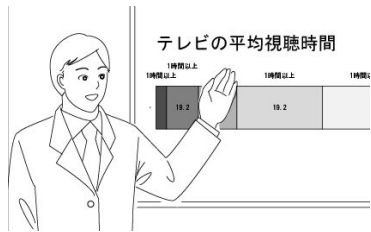


(複数回答)



ワークシート1 絵コンテ 番組テーマ「中学生とテレビ」

年 組 班 名前 ()

☆4 コマめの司会者のセリフを3つの中から一つ選び(A、B…選択、C…オリジナル)、そのセリフにつながる、3コマ目のコメンテーターのセリフを書きましょう。

画面	セリフ
	<p>1 司会：みなさん こんにちは。 今、中学生はどのようにテレビをどれくらいどのように見ているのでしょうか？ あるアンケート調査の結果をお知らせします。</p>
	<p>2 司会：まず、こちらをご覧ください。 〇〇中では平日のテレビ視聴時間は平均()時間()分でした。 テレビを放送時間に見る人は()%、録画再生で見ると見る人は()%、ウェブで見ると見る人は()%でした。 ▽▽さん、いかがですか？</p>
	<p>3 ▽▽「</p>
	<p>4 司会 A「そうですね。ノーテレビデイもたまには必要ですね。」 B「テレビは私達の生活に必要な情報源ですね。」 C「</p>

班員の発表 評価シート

発表者 氏名	4コマ 司会セリフ	評価	コメンテーターのセリフ	データの着目ポイント

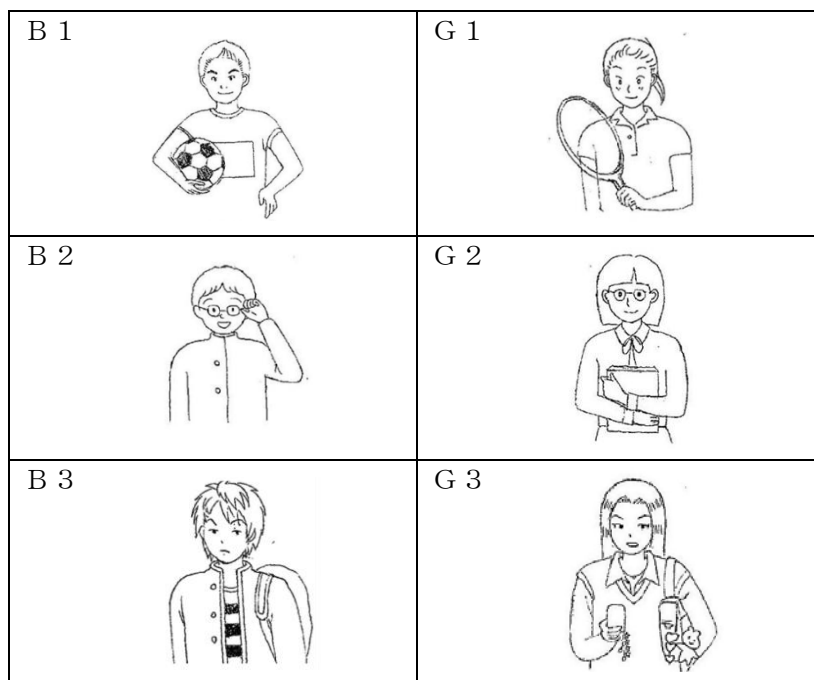
学習のまとめ

インタビュー・シーン 選択肢

<キャラクターカード>

B=男子

G=女子



■セリフ

「面白くて楽しいもの。」 「プロの試合を見て部活に役立てます。」
 「生活必需品。」 「世界のニュースとか災害情報を伝えてくれるものです。」
 「暇つぶしかな。」 「家具。」 「視力が落ちる機械。」
 「ゲームするとき使う。」 「家族がいつもつけてるけど…。」

キャラクターカードから3人選び、絵コンテの画面の枠に貼りましょう。

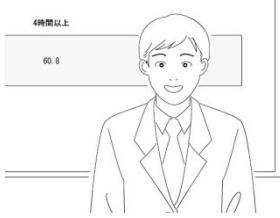

インタビュー発言の枠からセリフを選び、絵コンテのセリフの枠に書きましょう。

セリフはキャラクターの話し方に合わせて、創意工夫を加えましょう。

ワークシート2 絵コンテ 番組テーマ「中学生とテレビ」

年 組 班 ()

☆資料3から、6、7、8コマめのキャラクターとセリフを選び、9コマめのコメンテーターのセリフを書きましょう。

	<p>5 司会：それでは中学生自身にとって、テレビとはどんなもの なんでしょうか。</p>
	<p>6 インタビュアー（声だけ）：あなたにとってテレビとは何ですか？ A：</p>
	<p>7 B：</p>
	<p>8 C：</p>
	<p>9 コメンテーター： 司会：▽▽さん、ありがとうございました。 以上、中学生とテレビについて、××がお伝えしました。</p>

私達の班が、キャラクターの並べ方で工夫した点は…

私達の番組を見てほしいのはこんな人たちです。

クラス発表会 評価シート

組 班 名前 ()

班	評価	総合	感想・アドバイス
1	*アンケートのデータに対する コメントが的確だった。 A ・ B ・ C *制作意図を反映したインタ ビュー構成だった。 A ・ B ・ C *聞き手の反応を見て工夫して 話していた。 A ・ B ・ C	A . B . C	
2	*アンケートのデータに対する コメントが的確だった。 A ・ B ・ C *制作意図を反映したインタ ビュー構成だった。 A ・ B ・ C *聞き手の反応を見て工夫して 話していた。 A ・ B ・ C	A . B . C	
3	*アンケートのデータに対する コメントが的確だった。 A ・ B ・ C *制作意図を反映したインタ ビュー構成だった。 A ・ B ・ C *聞き手の反応を見て工夫して 話していた。 A ・ B ・ C	A . B . C	
4	*アンケートのデータに対する コメントが的確だった。 A ・ B ・ C *制作意図を反映したインタ ビュー構成だった。 A ・ B ・ C *聞き手の反応を見て工夫して 話していた。 A ・ B ・ C	A . B . C	
5	*アンケートのデータに対する コメントが的確だった。 A ・ B ・ C *制作意図を反映したインタ ビュー構成だった。 A ・ B ・ C *聞き手の反応を見て工夫して 話していた。 A ・ B ・ C	A . B . C	
6	*アンケートのデータに対する コメントが的確だった。 A ・ B ・ C *制作意図を反映したインタ ビュー構成だった。 A ・ B ・ C *聞き手の反応を見て工夫して 話していた。 A ・ B ・ C	A . B . C	

自分の班の枠には自己評価を書きましょう。

私達の班の評価 A… 人、 B… 人、 C… 人

学習のまとめ

【付属資料】 <監修者推薦>メディアリテラシー教育に関する書籍紹介

◆中学生に読ませたいメディアリテラシーに関する本はこれ！

林直哉『高校生のためのメディア・リテラシー』 ちくまプリマー新書 2007

ー映像制作の方法と学ぶことの意義を、高等学校の放送部の活動を例に具体的に教えてくれます。

森達也『世界を信じるためのメソッド ぼくらの時代のメディア・リテラシー』 理論社 2006

ーメディアを批判的に分析するスタンスを中学生に語りかけてくれるエンパワメントされる1冊です。

山中速人『娘と話す メディアってなに？』 現代企画室 2009

ー女子大生と専門家のトークで展開するラジオ番組を聞く(読む)うちに、メディア論がわかります。

◆メディアリテラシーについて知りたいときはこの本がお勧め

水越伸『デジタル・メディア社会』 岩波書店 1999

ー第2章「メディア・リテラシーと人間像の展開」でメディア・リテラシーの定義と意義が分かります。

菅谷明子『メディア・リテラシー 世界の現場から』 岩波新書 2000

ー英語圏のメディア・リテラシー教育の系譜と授業が紹介されています。中学3年の国語教科書に掲載。

鈴木みどり(編)『メディア・リテラシーの現在と未来』 世界思想社 2001

ー第2章のマスターマン『メディアを教える』抄訳からメディア・リテラシーの根本理念がわかります。

斎藤俊則『メディア・リテラシー』 共立出版 2002

ーメディア・リテラシーの基本概念となる記号論が丁寧に解説されている必読の書です。

山内祐平『デジタル社会のリテラシー「学びのコミュニティ」をデザインする』 岩波書店 2003

ー学校教育での情報リテラシー、メディア・リテラシー、技術リテラシーの3つの系譜がわかります。

渡辺真由子『オトナのメディア・リテラシー』 リベルタ出版 2007

ージェンダーの視点からメディア分析の方法が分かります。『ネットいじめの真実』も重要な1冊です。

坂本旬 他(著)『メディア・リテラシー教育の挑戦』 アドバンテージサーバー 2009

ー海外のメディア・リテラシー教育情報や高等学校での実践事例など、最新情報が分かります。

◆メディアリテラシーの授業を作りたいときはこの本がお勧め

井上尚美・中村敦雄(編)『メディア・リテラシーを育てる国語の授業』 明治図書 2001

井上尚美(編)集代表『国語科メディア教育への挑戦』第1～4巻 明治図書 2003

ー小学校から高等学校まで豊富な実践事例が、発問から生徒の反応まで詳細に書かれています。

松山雅子(編著)『自己認識としてのメディア・リテラシー』 教育出版 2005

ー国語の授業で使える映像教材が満載。パソコン教材のCD付。Part II (2008)もお勧めです。

鈴木みどり(編)『Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』 リベルタ出版 2000

ーメディア・リテラシーのワークショップのアイデアが満載。ワークシートがそのまま使えるのが魅力。

堀田龍也『メディアとのつきあい方学習 「情報」と共に生きるこどもたちのために』 ジャストシステム 2004
ーメディア機器を活用したメディア・リテラシー授業づくりの最初の一步はこの本から。